

第4回高知県地域防災力維持確保対策検討委員会 会議要旨

平成25年8月28日(水) 10:00~12:00

高知共済会館 3階 桜の間

1. 出席者

(1) 委員

ア 出席委員(7名)

大年委員長、大西委員、仙頭委員、西野委員、藤山委員、宮田委員、渡邊委員

イ 欠席委員(2名)

高橋委員、中野委員

(2) 事務局

・奥谷土木部長、田所副部長、平田副部長、今西建設管理課長 ほか

2. 議題

(1) 地域をよく知る建設業者の確保

①経営安定化のための方策

②マンパワーを確保するための方策

(2) その他

3. 議事要旨

○事務局より議題(1)を説明

○議事概要

◆ 日本の建設企業はとても優秀なので差別化が難しく、入札制度を色々と改善してもその効果には限界があるのではと感じていた。発注者も受注者も研鑽を積んだ結果、一定の研鑽を積んだ企業だったらどの企業でもできるという状況にあるのではないかと。それは、もしかすると、付加価値とか住民の幸せに必ずしも直結しない事業が増えていることを示唆しているのではないかとこの感じがした。

そこで、発注者の方も、「幸せを知る県、高知県(幸知県)の実現に資する事業」を立案し、実施するという新しい「発注者責任」というものが求められているのではないかとこの気がする。そういう豊かで幸せな日常を作っていたあかつきに、防災という非日常のあり方も初めて検討できるのではないかとこの気がする。道路整備をすれば渋滞が緩和され、CO₂が削減されるという社会的な費用は削減されているんだけど、それによって、新しい地域の魅力がどれ程上がっているかという、なかなか難しい面もあるかもしれない。これからは地域の付加価値を上げていく事も建設事業、建設業界の大事な役割なのではないだろうか。

その時に、利用者とか納税者とか住民と一緒に、この地域のビジョンを考え、それに実現する事業を考えていく。そこに、建設業界の方も入り、一緒に考えていくと、それは高知県(幸知県)の実現に貢献できるんじゃないだろうか。そういう“高知県(幸知県)の実現に資する事業”に若者が参画できたら、生きがいにも繋がっていくのではないのか。

か。そういう意味で「地域の人々と建設業者が共に企画・立案できる事業」というのが必要なのではないか。

- ◆ 維持管理や緊急を要する小規模災害、こういうものに積極的に対応して頂いている地域の企業、こういった企業の経営事項審査の加点を、今のレベルから大幅にアップしてほしい。そういう事が地域をよく知る業者を守っていくことになるのかなと思う。

- ◆ 国の方では、今年度から社会資本のメンテナンス元年という形で、具体的に長寿命化のサイクルに乗せて見直しをやったり、データを蓄積したり、また、さらにその維持管理も継続してやっていこうという動きで今進んでいる。

地域維持型JVについては、色んなところで取り組もうとする姿勢はあるが、今のところあまり効果的進んでいない。業者が沢山いるような地域ではあまり馴染まないで、どの地域に地域維持型JVを適用するかといったことは、あらかじめ考えておかないといけない。

山の中の業者が比較的少なく、中小の企業しかないようなところで、地域維持型JVを参加の要件として可能というような事を付けると可能性としては出てくるのではないかな。そういう前捌きみたいなものが、地域維持型JVの活用においては必要なのではないかな。

- ◆ 高知市で考えた場合、昭和50年頃に発生した災害の時に、高知市内中心部の仕事が多いという事と利便性が良いという事で、なかなか土佐山、鏡の山の方へ行く業者が少なかった。

今の状態で、もし今度大きな災害がきた場合、地元の業者が1社か2社位しかない土佐山、鏡の山間部に、経営も厳しい、利益も少ないという状況で、市内の業者が行くだろうかという不安がすごくある。

- ◆ 業界の方々や業者さんとお話しすると、特に公共事業は空白の時期というのがどうしても出来てきて、4月から6月ぐらいというのは発注が少ないということがあり、その時期をどうやって乗り越えるかというのが経営上一番大変という話をよく聞く。

その時期に特化した、建設業を維持しつつ経営を強化する視点・目的というのを明らかにして、どういう風にやるのかという方策を考えていく必要があるのではないかな。

- ◆ 建設業を希望する学生が、昔と比べるとずいぶん減っているという印象がある。また、今の子は就職してもすぐ辞めてしまうというのを目の当たりにしているので、実感としてもよく分かるが、やはり建設業の魅力をいかに発信していくのか重要ではないかな。魅力を感じた者は、結構長続きしているのではないかなと思うので、若い学生に建設業の魅力を発信し、建設業も若い子が働き甲斐のあるような業界にしていくという、お互いの努力が必要かなと思う。

建設業労働者に対するアンケートの結果を見ても、やりがいを感じるというところも結構ある。やはり建設業は今まで、キツイとか汚いとか、そういう風な悪いイメージが結構あるけれども、やはり社会を支えている基盤産業・基幹産業でもあり、また、やりがいもある業界なんだということを、官や教育機関や業界がこれまで以上に発信して行くような取り組みを強化していく必要があると思う。

- ◆ 建設業界は、良いことはあまり取り上げてもらえずに、悪いことの方はものすごく大きく取り上げられることの方が多いので、そういうところの問題もあるのかなと思う。
- ◆ 総合評価や経営事項審査など、あまり点数だけがどんどん先走りしてしまうと、真の使命をもった地域の建設業者というもののあり方が、変わっていくのではないかと危惧している。
点を稼ぐというのは、また余分な経費もかかってしまうということもある。真面目にやってくれている方もあれば、良い時だけというような方もいるので、発注の仕方がすごく難しいと思うが、地域に本当に根付いて頑張っている業者さんが、生き残っていけるような仕組みをお願いしたい。
- ◆ マスコミの方には、建設業界で頑張ってらっしゃるお一人お一人に光をあてて紹介していただきたい。震災対応も、自衛隊が行く前に道路啓開をするのは地元の建設企業。また、一般的な工事も、今年みたいにすごく暑い中、例えば警備員の方も、日中ものすごく暑いし、夜はなかなか見えにくい中、危険を感じながらお仕事されているかもしれない。そういうような思いに光をあてて紹介していただきたい。
- ◆ 競争が大事だというのは良くわかるのが、大事なことは「何について競争するか」ということ。それは、ローカルな知識と経験とか知恵というものがきちんと評価されるような競争・入札制度を作っていかなければいけない。
提案として、例えば10億でも1億でもいいので、何か試行的に「幸せプロジェクトコンテスト」みたいなものを、高知県のほうで企画していただくことはできないか。
アンケート結果にもあったように、建設業の何に魅力を感じるかというところ、「創造する喜び」とか「建設した物が後世に残る」という部分。この魅力をやはり建設業の方々が実感しなければ話にならない。
多様な入札・契約制度が大事だというふうに国土交通省もいっているが、住民とともにこういう事業を立案してもらおう。それをコンペ方式でやってみる。そうすれば、それが起爆剤になってまた変わっていくかもしれない。そういうことを是非、高知県にお考えいただきたい。
- ◆ 現在、防災教育が保育園あるいは小学校の小さい頃から盛んに行われつつあるので、小学生の中に防災・減災にかかわる職業としての建設業の役割、その魅力をうんと伝えていったら、子供たちには非常に身に染みて、そこからなってみたいとか、やりがいのある仕事ということがわかってもらえるのではないだろうかと思うので、教育委員会と是非タイアップして、防災教育の中で建設業の素晴らしさを伝えていっていただきたいと思うし、また、メディアを上手に使うって発信をしていっていただきたいと思う。
- ◆ 建設業界に是非、女子力も活用していただきたい。
それには、今回参考に配布いただいたような高等技術学校のパンフレット等にも、女性が活躍している写真や絵が必要だと思う。やはり女性がやろうと思っても、なかなか一歩が踏み出せないというところがあり、こういうパンフレットを作る時もそういう部分が大切だと思うので是非お願いしたい。

- ◆ 第1回の委員でこの委員会の立ち位置を明確にすることについて投げかけをさせていただき、そこで、地域防災力を確保していくためには建設業者さんが必要というのが大前提で、もうひとつは、有事の際にそれをいかに有効に運用・活用していくかという二点についての検討をする委員会ということで進んでいると思う。

そうすると、建設業者を残して運用を図るというこの二点の目的を達するための取りまとめであるべきであるので、競争性との兼ね合いもあるが、その書き方として、初期の目的が達成されるための取りまとめにしていきたい。